



合格体験記(高校) ②

No.365

★H・Mさん 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立東葛飾高校

創学舎の先生方は、生徒一人一人に親身になって授業をしてくれたり、アドバイスをしてくれたりしました。授業はとても楽しく、分かりやすく、とても好きでした。テキストも、先生方や事務の方が一つ一つ手作りしたのを使うことができ、とても良いテキストでした。私は前期選抜で不合格でしたが、その日から創学舎で毎日勉強したおかげで集中でき、やる気をしつかり持ち続けることができました。



私が伸びることができたのは、先生が最後まで丁寧に指導してくださったのと、自分でも毎日コツコツ続けて勉強してきたからだだと思います。これからも頑張ります。ありがとうございました!!

★I・K君 我孫子教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立東葛飾高校

創学舎の授業は簡単な部分も省略せず丁寧に指導するので、基礎をしっかりと固めることができました。この授業のおかげで土台ができ、応用問題への対応力が高まりました。僕の苦手科目の数学にもそれはつきりと現れていました。僕は数学の応用問題に苦手意識がありました。それが基本の欠如によるものだと気づかされ、基本をしっかりと直すことで苦手を解消できました。夏休みや冬休みの勉強の習慣づけ、授業での基礎固めによって、偏差値は四

ど上がりしました。入試直前には、学力よりも得点力を重視した授業が行われました。これによって合格の確実性が増しました。

★M・Y君 我孫子教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立柏高校

勉強会など、自習時間が長いので、苦手だと自覚している教科を重点的にできるので、よかったです。また、集団だから、友達ができました。授業は楽しくて、四十五分があつという間に過ぎていく感じがしました。直前の補習のときに、英語のプリントをもらったり、英作文の採点をしてくれたりしたので、苦手だった英語で過去問よりもいい点数をとることができました。伸びた理由は、ゴロ合わせがおもしろかったからです。特に社会のゴロ合わせはたくさん頭に残っています。

★M・S君 我孫子教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立小金高校

私は、志望校を決めたとき、周囲の人から厳しいのではないかと言われました。しかし、私はどうしても小金高校に入りたかったので毎日頑張ろうと決めました。創学舎は毎日自習室を開放してくれて、質問の対応などもとても丁寧でした。授業でも、わからない人がいたらその人に合わせてくれてとてもわかりやすかったです。でも、私が一番創学舎でよかったと思つたものは、副教材です。正直夏休みは何をやれば良いのかあまりよくわからなかったのですが、五科の副教材ばかりやっていました。私はそれをほぼ毎日自習室に行つてやりました。すると、模試の偏差値もどんどん上がっていき



★A・Yさん 江戸川台教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立小金高校

創学舎の良かった点は、授業がとても分かりやすいところ。どんなに難しい内容でも、先生が丁寧に説明してくれたおかげで、理解することができました。

また、ずっと授業をするだけでなく、いろいろな話をしてくれたので、とても楽しかったです。

テキストもとても分かりやすく、特に英語のテキストは、本当に大切



なことばかりで、「これをやっていたら、絶対大丈夫」と、信じてやることができました。

★I・Mさん 江戸川台教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立鎌ヶ谷高校

創学舎は、ただ、ガツガツ勉強をさせるだけの塾ではありませんし、大量の宿題をさせるだけの塾でもありません。

勉強面だけでなく、何が大切なのかを気が付かせてくれた場所だと思います。礼儀や生活面、先生方が、私たちにくれた言葉で、何度も助けられました。先生方が、精神面で支えてくれたおかげで、そして、その言葉を信じられたからこそ、合格できたのだと思います。先生は、よく、「努力は裏切らない。」と言っていました。本当にそのとおりだと思います。挫折しても、失敗しても、努力し続ければ、絶対に成功します。挫折も、失敗も、成功するための経験の一つなのです。

★O・D君 新柏教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立小金高校

僕は、中学二年生の冬期講習のときに入りました。理由は自分の学力低下です。中学一年生の頃は定期

テストで上位一〇パーセント以内には入っていたのに、その頃は半分より下の順位でした。新柏では三つのクラスがあり、成績は真ん中のクラスの真ん中でした。かつては頭の良かった自分が真ん中のクラスにいることが悔しくて勉強を頑張りました。

夏休みに入り、部活も引退して更に勉強に励みました。塾の夏合宿はとても楽しく勉強できました。一日八時間以上勉強しますが、みんなと一緒にやれば楽しくできます。



僕は流通経済大学附属柏高等学校、専修大学松戸高等学校を私立として受けました。専修大学松戸高等学校に落ちたときにだいぶ落ち込みましたが、現実を見てひたすら勉強しました。最初の模試の偏差値が四八〇五〇だったので、創学舎の先生方のおかげで偏差値をかなり上げることができ、小金高校に進学できました。

★F・Y君 新柏教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立柏中央高校

僕は、英語と社会が苦手でした。だから、僕は創学舎の四日間の夏合宿の苦手科目に英語を選択しました。四日間毎日集中して一〇時間以上勉強することによって夏休み後、英語は安定した点をとれるようになりました。また、社会は創学舎では三年生から授業を受けるようになりました。最初は、歴史・地理・公民、三つともわからないことばかりで最初のテストは五〇点ぐらいでした。しかし、マイクリアを三周するころにはずいぶん安定して得点をとれるようになりました。公立受験ではこの社会、英語が九〇点ぐらいとることができて最高にうれしかったです。

★S・Mさん 柏教室 中3 A1コース在籍

(進学生) 県立柏高校

私は、英語がとても苦手で、長文読解などは見ただけでも嫌でした。しかし、先生の補習や勉強のアドバイスのおかげで、少しずつ苦手意識をなくしていくことができました。本当に感謝しています。また、先生方は、模試の結果が悪かったときや、志望校などに悩んでいたときに、アドバイスをしてくださりました。入試直前になってからは、そのようなことが本当に心強かったです。創学舎に通って良かったと思っています。

★S・K君 柏教室 中3 A1コース在籍

(進学生) 県立柏高校

創学舎はとても分かりやすい授業が多く、先生がとてもしっかりしているの、自然と勉強する習慣が身につきました。日曜日にある勉強会には最初に行きたくないと思っていたのですが、今ではこの勉強会がなかったら受かってなかったと思うほど重要だと思えます。国語が苦手な科目だったので、創学舎の先生の分かりやすい授業のおかげで解き方が分かるようになってきました。自分の分からないところを質問して分かりやすく教えてくれることが苦手科目を克服できた一番の理由だと思います。

★S・R君 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学生) 県立葛飾高校

僕が創学舎に入ったのは二年生の最後でした。塾に入ってから頃は塾の方が学校より先に進んでいて全然追いつけないと思っていました。しかし、先生が補習してくださったおかげですぐに追いつくことができました。先生は問題の解き方や公式だけでなく、豆知識や面白いエピソードなどをはさんでくれたので、楽しく授業を受けることができました。

夏の合宿では朝早起きして夜まで勉強して、疲れまじり。だが、同時に達成感も味わえても自信になりました。合宿が終わると本格的な受験勉強を自主的にするようになって自習室にも通うようになり、わからないことはいつでも質問できる環境でどんどん苦手分野を潰すことができました。

★O・Mさん 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学生) 県立小金高校

秋になり、V模擬がはじまりました。自分の実力を試す大事なテストですが、実力を発揮できず、いつも残念な結果が返ってきました。その度、自分の力が足りないことを感じていました。公立入試前最後のV模擬でも、第一志望校である小金高校の合格判定がとて低く、私は自信をなくしかけていました。しかし、先生方は、公立入試が近づく私を勇気づけてくださいました。私は、先生に恩返しするために絶対合格しようという気持ちを持ってました。

最近の若者の皆さんへ

●「折り重なってたおれた家々と、折り重なって死んでいる人々の群れ……。子どもを探す母ちゃん」と母ちゃんを探す子どもの声。」

これは、小六の国語教科書に載っている『川とノリオ』の一節です。授業で読み合わせをすると、この活字情報から、焼け焦げた広島の様子を頭に描き、声を失う子、表情が固まる子、目と口を大きく開いてこちらを見つめてくる子たちがたくさんいます。

●「給食を食べきれずに、何かを残してしまうとき、」先日ある女子生徒が語ってくれたのですが、「アフリカのみなさん



ん、本当にごめんなさいって、心では謝って残します！」ということでした(なぜかアフリカ限定。また、果物など、誰かに譲れるものは、大声でクラス中に呼びかけて、必ず誰かに(食いしん坊の男子に)食べてもらってほっとしている、とのことでした。

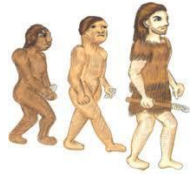
●古代の遺跡や粘土板に刻まれた文字を解読したら、「最近の若者はまったく……。」という大人の愚痴だった、という話は以前から諸説あります。たしかにそう感じてしまう場面や瞬間がないわけではありませぬ(年をとったので)。

●しかし、実は、この、過保護的とも言える便利な時代、大量大衆消費文化の構造から抜け出せずにいる時代、文字や音声や映像の情報過多(役立つものから、劣悪・俗悪なものまで)の時代で生きている今の若者は、大変生きづらいのではないのか、と考えることもありませぬ(我々大人がそんな世の中にしまっているわけですが。スママセン！)。

●そんな中で、先述のような場面に出くわすと、救われる思いがします。

●青く、柔らかく、それゆえ影響を受けやすく傷つきやすい年頃の皆さんが、情報過多のこの時代、その匿名性ゆえにネガティブノイズだらけのネット空間と隣り合わせのこの時代で生きていることを思うと、日々のバランスを保つだけでも大変なのではないかと心配になります(考え過ぎですか?)。

●五〇〇万年前に枝分かれしていますが、我々人類とチンパンジーとは遺伝子レベルでは、一〇二パーセントしか差がありません。身体的なこと限定すれば、縄文時代の頃に適応的な遺伝子構造のままだそうです。アメリカの進化経済学者ポイド・イートン教授は、「今の我々人類は、オンボロ自転車で高速道路



を走っているようなものだ。」と表現しています。確かに、我々人間の外にあるハードウェアやソフトウェアだけ先行し急激に発展しています。(あと何年かで人工知能がIQ1万を超えるそうです。そのIQ1万のAIを利用して、さらにスペックの高い人工知能が誕生するとも言われています。)

●さて、まだしばらくは自転車並みの我々なのであれば、技術の変化にはゆっくりとしか適応できないはず。ならば、この先どんな未来になるのかを考えると同時に、自転車並みの我々自身の本質を探究しておくことも必要です。我々がどんな存在なのか知っておけば、技術の革新とともに、どんな成長曲線を描くかを予想しやすくなるでしょうから。

●技術革新と人の物の見方・考え方の変遷は、実は歴史の中にも数多く残されています。池田晶子さん(哲学者、二〇〇七年に他界)もその著書『十四歳の君へ』の中で、「君たちが何者か知りたければ、歴史を、そして古典を学びなさい」と述べられています。

●五〇〇万年の間(遺伝子レベルでは)あまり変わっていない我々なのだから、当然「歴史は繰り返す」でしょうし、「歴史の中に答えが見つかる」可能性は大です。

●創学舎でも、中三の春期講習から「歴史」の授業が始まりました。若く、青く、柔らかく、澄んだ瞳をした君たちだからこそ、歴史から学べることに、感じとれることが数多くあるはず。 (五日市)



▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。